

団体基礎情報			
団体名	ふりがな	いっばんしゃだんほうじん　さらだぼうる	
	一般社団法人サラダボウル		
団体所在地	郵便番号	040-0053	
	住所	北海道函館市末広町18番25号函館大三坂オフィス内	
主な活動地域	北海道函館市		

外国ルーツ受益者を対象とした自団体の現在の活動と課題について

団体による外国ルーツ支援活動の実績・成果 （400字以内）	サラダボウルは設立してまだ1年に満たない団体であるが、社会の多様な人たちを支援し、共生社会の実現を目指している。役員は留学生やワークキャンパーの受入で外国人の支援を行っていた豊富な経験がある。例えば2010年頃から国が行う第三国定住受入のため地域の行政、企業、大学、市民活動団体などをつなぎ、受入体制の構築を行ってきた。その結果、2022年にはタリバン政権から追われたアフガニスタン、ウクライナ難民の支援を行ってきた。地域でもその活動が評価されている。2024年には北海道の3地域（函館、苫小牧、滝川）で外国ルーツの子どもの支援を、子ども食堂とタイアップして行い、地域にある資源を活用してコーディネートする経験を得ることができた。		
	今後は役員のこれらの経験を元に、外国ルーツの子どもたちに関わる支援者をつなぎ、スムーズな支援ができるようにサラダボウルがコーディネートする団体として活動していきたい。		
団体の外国ルーツ支援において課題だと感じていること（課題感が強いものから順に記載）			
分野全体としての課題	課題	詳細	
	① 学習支援 ② 居場所やこども食堂 ③ 進路支援	外国ルーツの子どもを支援できる団体がほとんどない こども食堂は現在17か所あり増えているが、学校区毎にある状況ではない 進学、トレーニング、就労への一元化した支援先がない	
活動地域の課題	課題	詳細	
	① 支援体制が無い ② 担い手不足 ③ 移動手段の不便さ	外国ルーツの子どもを支援する団体がない 外国ルーツの子どもを支援する専門人材やボランティアが不足している 学校区を越えて移動する公共手段が限られていて不便である	

活動支援プログラム参加について

団体の組織上・活動上の課題*（400字以内）	サラダボウルは設立間もないため、内部規程、労務管理、財務管理、情報管理などの組織基盤が未整備であり、ビジョン・ミッションの明文化も十分ではない。そのため、事業の方向性を共有し、持続的な運営体制を築くための組織強化が急務である。また、寄付や自主事業収入が少なく委託事業に依存していることから、財源の多様化も必要である。一方、地域では学習支援、子ども食堂、生活相談、就労相談など外国ルーツ支援に携わる団体が散在し、連携が弱いことが課題となっている。こうした状況を踏まえ、専門性と中立性を持つコーディネーター機能を強化し、相談支援、学習支援、居場所づくり、行政との連携を包括的に調整できる体制を整える必要がある。
------------------------	---

活動支援プログラムで受けたい支援内容

優先度	具体的なご要望があれば		
1番目	組織運営支援	代表・役員・スタッフを含めた ビジョン・ミッションの策定ワークショップのような研修（専門家）、就業規則、労務体制、内部規程、情報管理規程などの 組織基盤整備の伴走支援、会計・経理フローの整備、意思決定プロセスの明確化、ガバナンスとコンプライアンスの体系化、	
3番目	社会的インパクト評価支援	事業目的・成果指標の整理、ロジックモデルの作成、スタッフ向けの評価研修（専門家派遣）、基礎的なデータ収集方法、評価結果の広報・協働先共有の仕組みづくり	
4番目	事業実施支援	子ども支援（学習・居場所・相談）に必要な知識習得のための研修、やさしい日本語・多文化理解の研修、函館市内外の担い手とのネットワーク形成の伴走、事業計画書などの作成支援	
2番目	広報・ファンドレイジング支援	広報戦略の策定（ブランド設計・メッセージ整理）、SNS運用方針の策定、ストーリー型発信の伴走、ファンドレイジングの基礎構築（・寄付・会費の仕組みづくり・資金の多様化（委託費・自主事業・寄付））、中長期的な資金基盤スタイル（指定管理や委託で管理費が取れない課題の補完）	
5番目	つながりづくり支援	プラットフォーム形成のためのつながりづくり	
不要	その他		

活動支援プログラム終了後について

本活動支援プログラムへの参加から上記の想定を実現した場合の短期・中期・長期アウトカム（事業や団体の活動の成果）を記入してください。

短期アウトカム（成果）	地域の関係団体と顔の見えるつながりができ、情報交換や検討の場が始まる ビジョン・ミッションが策定され、組織内で共有される 広報戦略が稼働し、地域からの相談・問い合わせが増加 基本的な規程類が整備され、組織基盤が安定する 関係機関との連携が強まり、サラダボウルが「相談の入口」と認識される
中期アウトカム（成果）	外国ルーツの子ども支援における地域連携モデルが構築される 子どもの相談支援・学習支援・居場所支援が複数の地域拠点で展開 多様な財源（寄付・会費・自主事業・委託費）が確立し、収入が安定 活動成果が可視化され、行政・学校・地域団体からの信頼が向上する
長期アウトカム（成果）	函館モデルが他地域の参考として広がり、北海道内でのネットワークが強化 サラダボウルが外国ルーツ支援の「中核団体」として確立 地域に多様な担い手が育ち、共生社会の基盤が持続的に形成される